

(4)開催チラシ

丹波地域 大学・地域連携4大学合同シンポジウム

大学と地域はどう連携するか ～丹波地域の事例を通して～

丹波地域では、現在4つの大学が活動拠点を確保し、各地域の課題を踏まえ、それぞれ違ったテーマで地域連携活動を展開しています。

これらの活動事例の報告とともに、大学と地域はどのように連携できるのかなどについて考えます。

多数のご参加をお待ちしています。



関西学院大学柏原スタジオ
講義、調査、カフェなど多彩な活動による中心市街地活性化



関西大学佐治スタジオ
持続的に“関わり続けるという定住のカタチ”による農山村集落での21世紀のふるさとづくり



神戸大学篠山フィールドステーション
農業・農村体験を通じた交流・地域活性化

日時 平成22年12月12日(日)
13:30～17:00 (13:00開場)

場所 JA丹波ひかみ柏原支店
2階大会議室

定員 100名(参加無料)



兵庫県立大学山南スタジオ
恐竜化石を生かしたまちづくり
地域資源の活用による地域活性化

■参加申込み方法

参加申込書(裏面)に必要事項をご記入の上、FAX または郵送にてお申し込みください。
【申込み締切:平成22年11月30日(火)必着】

■申込み・問い合わせ先

大学・地域連携4大学合同シンポジウム事務局
兵庫県丹波県民局丹波土木事務所まちづくり建築課
〒669-3309 丹波市柏原町柏原688
TEL: 0795-73-3862 FAX: 0795-72-4596

主催: 大学・地域連携4大学合同シンポジウム実行委員会

共催: 兵庫県丹波県民局

協力: 関西大学、関西学院大学、兵庫県立大学、神戸大学(大学院農学研究科地域連携センター)、篠山市、丹波市、備前市、柏原市

後援: 神戸新聞社、丹波新聞社

プログラム

- 13:00 開 場
- 第1部 (13:30~15:10) 開会挨拶 江川直樹 (大学・地域連携4大学合同シンポジウム実行委員会会長)
伊藤 聡 (兵庫県丹波県民局長)
- 基調講演 テーマ「大学のシーズを地域のニーズに」
角野幸博 (関西学院大学総合政策学部教授)
- 活動発表 関西大学佐治スタジオ 出町 慎 (研究員)
関西学院大学柏原スタジオ 北出悟士 (大学院生)
兵庫県立大学山南スタジオ 山崎義人 (講師)
神戸大学篠山フィールドステーション 近藤 史 (研究員)
- 第2部 (15:20~17:00) パネルディスカッション テーマ「大学と地域はどう連携するか」
コーディネーター 角野幸博 (関西学院大学総合政策学部教授)
- パネリスト 江川直樹 (関西大学環境都市工学部教授)
客野尚志 (関西学院大学総合政策学部准教授)
田原直樹 (兵庫県立大学自然・環境科学研究所教授)
内平隆之 (神戸大学大学院農学研究科)
足立成人 (イクジウッド株式会社代表取締役)
荻野吉彦 (株式会社まちづくり柏原代表取締役)
村上 茂 (上久下恐竜の里づくり協議会事務局長)
土井英樹 (福住地区まちづくり協議会事務局長)
- 閉会挨拶 田原直樹 (大学・地域連携4大学合同シンポジウム実行委員会副会長)

会場へのアクセス (地図)



会場

JA 丹波ひかみ柏原支店
2階 大会議室

(丹波市柏原町柏原 1079-22)

- JR 福知山線「柏原駅」隣
- 駐車場あり (建物敷地隣・建物裏)

■参加ご希望の方は、以下にご記入のうえ、FAXまたは郵送にて事務局へお申し込みください。

■ご記入いただいた個人情報は「丹波地域 大学・地域連携4大学合同シンポジウム」参加者数の把握およびご参加いただけない場合の連絡以外の目的には使用しません。

丹波地域 大学・地域連携4大学合同シンポジウム		参加申込書	
ふりがな		参加人数	名
氏名 (グループの場合は代表者)			
住所	〒		
職業 (所属等)	()	会場への交通手段 (□にチェックを入れる)	<input type="checkbox"/> 自動車 <input type="checkbox"/> 電車 <input type="checkbox"/> 徒歩等
電話番号	※日中連絡可能な連絡先をご記入ください。		

FAX 0795-72-4596

※定員に達してご参加いただけない場合のみ当方から連絡いたしますので、連絡がない場合は直接会場にお越しください。

(5)プログラム資料



丹波地域 大学・地域連携4大学合同シンポジウム

大学と地域はどう連携するか ～丹波の事例を通して～

平成22年12月12日(日)

13:30～17:00

JA 丹波ひかみ柏原支店 2階大会議室

～目次～

ご挨拶	1
プログラム	2
活動概要・発表者紹介	
関西大学	3
関西学院大学	4
兵庫県立大学	5
神戸大学	6
プロフィール	
(基調講演・コーディネーター・パネリスト)	7



主催：大学・地域連携4大学合同シンポジウム実行委員会

共催：兵庫県丹波県民局

協力：関西大学 関西学院大学 兵庫県立大学 神戸大学大学院農学研究科地域連携センター、篠山市、丹波市、(株)まちづくり柏原

後援：神戸新聞社 丹波新聞社

ご挨拶

日本建築学会創立120周年記念近畿支部主催事業「美しくまちをつくる、むらをつくる」設計・計画提案競技が丹波市青垣町を舞台に行われたのが、2006年6月のことでした。研究室の学生によるこの提案競技への応募をきっかけに、大学と丹波地域との交流がはじまりました。

その後、大学は丹波市とまちづくりに関する包括協定を締結し、加えて、文部科学省の「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」に申請し、幸いにも採択されるに至りました。審査に関わる文部科学省からのヒアリングで、私は、このような大学と地域との取り組みが、今後さらにいろいろな大学により展開されるべきであると話したことを思い出します。

それから4年半が経過しておりますが、丹波地域では、現在4大学による地域連携の取り組みが進められており、感慨深いものがございます。

このようなことから、4大学が一同に会して、大学と地域の交流・連携のさらなる発展を図るべく、本日、ここにシンポジウムを開催することとしました。本日のシンポジウムが、大学と地域との連携の意味と可能性を探る有意義なものとなることを大いに期待いたしまして、開会のご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

大学・地域連携4大学合同シンポジウム実行委員会長

関西大学環境都市工学部 教授 江川 直樹

丹波地域では、少子高齢化の進展、若者の流出などにより地域の活力低下が進みつつあり、地域づくりをどのように進めていくかが大きな課題となっております。

そのような中、4大学が丹波地域に活動拠点を設け、交流型定住による故郷づくり、中心市街地の活性化、地域資源を活かした地域活性化、農業・農村体験を通じた交流と地域活性化など、様々なテーマで地域と連携した取り組みを展開しています。

地域の皆様にとっては、大学生とともに互いに知恵を出し合い共に活動することで、地域を見つめ直し、よりよい将来を考える機会となっているのではないのでしょうか。また、大学生の皆様も、より実践的な授業や研究等を進めながらも、地域への貢献や住民との交流を通して、やりがいと都会とは違う第二の故郷を得たように感じていただけるのではないかと思います。

そのような意味で、今後とも大学の活動拠点が地域の活性化に大いに貢献するとともに、学生の皆様もこの地域で楽しみながら活動を展開していただければ幸いです。

本シンポジウムが、大学関係者と地域住民が相互に交流し意見を交換し合う中で、今後の大学と地域の連携・交流がより一層、充実・発展していく契機となることを期待しています。

最後になりましたが、本日のシンポジウムの開催に当たり、大学関係者の皆様並びに地域の皆様にご協力をいただきましたことに心よりお礼申し上げますとともに、今後一層のご活躍をお祈りいたします。

兵庫県丹波県民局長 伊藤 聡

プログラム

司会進行： 佐藤 まゆみ

第1部 13:30~15:10

13:30	10分	開会 開会挨拶 大学・地域連携4大学合同シンポジウム実行委員会会長 江川 直樹 兵庫県丹波県民局長 伊藤 聡
13:40	30分	基調講演 「大学のシーズを地域のニーズに」 関西学院大学総合政策学部 教授 角野 幸博
14:10	60分	活動発表 関西大学 TAFS 佐治スタジオ 「農山村集落との交流型定住による故郷づくり」 関西大学 TAFS 佐治スタジオ 研究員 出町 慎 関西学院大学柏原スタジオ 「地域で学ぶ・地域と学ぶまちづくり」 関西学院大学大学院 修士課程 北出 悟士 兵庫県立大学山南スタジオ 「丹波地域の魅力の発見と、学習・交流、情報発信」 兵庫県立大学自然・環境科学研究所 講師 山崎 義人 神戸大学篠山フィールドステーション 「野良仕事を学ぼう、田舎に学ぼう / 地域の活性化につながる提案づくりに挑戦」 神戸大学農学研究科 地域連携研究員 近藤 史

休憩

第2部 15:20~17:00

15:20	90分	パネルディスカッション コーディネーター 関西学院大学総合政策学部 教授 角野 幸博 パネリスト 関西大学環境都市工学部 教授 江川 直樹 関西学院大学総合政策学部 准教授 客野 尚志 兵庫県立大学自然・環境研究所 教授 田原 直樹 神戸大学大学院農学研究科 地域連携研究員 内平 隆之 イクジウッド株式会社 代表取締役 足立 成人 株式会社まちづくり柏原 代表取締役 荻野 吉彦 上久下恐竜の里づくり協議会 事務局長 村上 茂 福住地区まちづくり協議会 事務局員 土井 英樹
-------	-----	---

16:50 10分 閉会

閉会挨拶
大学・地域連携4大学合同シンポジウム実行委員会副会長 田原 直樹

活動概要

関西大学佐治スタジオ

活動テーマ

農山村集落との交流型定住による故郷づくり

丹波市を舞台に、「関わり続けるという定住のカタチ」と「21世紀の故郷づくり」をテーマに、地域に増え続ける空き家を学生が主体的に改修し、活用方法を検討実践する「空き家リノベーションプロジェクト」などを通じて、持続的な地域再生に向けて活動をしている。若い学生が定期的に現地を訪れ、将来にわたり関わり続ける、いわゆる交流型定住という新しい定住のカタチが、過疎化に悩む中山間地域に定住効果を生み出す。また、関わり続ける学生にとっては、卒業後も家族や友人と訪れ過ごす事の出来る、豊かな山河に囲まれた故郷を持つ事が可能となる。何よりも、多様な人々が、様々なカタチで関わり続ける中から、地域の再生に向けて考え続ける環境作り、仕組み作りが必要であると考えている。

活動内容

今年度からは、関西大学の全学を対象とした活動が始まっており、より多様な研究分野や視野を持った専門家や学生たちと丹波に関わり続ける環境作りが始まっている。また、地元の住民や高校生たちと主体的にまちづくりを考える取り組みも始まっており、関わり続けるという定住のカタチは、さらなる広がりを見せている。主な活動内容は下記の通り。

空き家リノベーションプロジェクト

滞在型講座の開講 - 「地域再生」「ワークキャンプ」「木造設計演習」

地域交流ワークショップ「丹波ともっと交流しよう」を月1回開催

段階的な空き家活用団体「佐治倶楽部」の設立・運営

丹波コミュニティ・ツーリズムによる良好な景観作りプロジェクト

まちづくりワークキャンプ 2010「氷上町中央地区」 ATACOMによる造り物の作成 - 高校生と挑む。若者によるまちづくりプロジェクト(丹波若者塾) などなど。



改修 佐治スタジオ



改修 本町の家



佐治倶楽部 空き家を使った花屋



ATACOM

発表者紹介

出町 慎 (関西大学 TAFS 佐治スタジオ 研究員 / 佐治倶楽部 副部長)

1982年、奈良市出身。関西大学工学部建築学科卒業。研究分野である、建築環境デザインの視点から、丹波市における地域再生に関わり続けている。



活動テーマ

地域で学ぶ・地域と学ぶまちづくり

地域で学ぶことにより、学生自ら地域の実情や特性、問題点等を実際に把握し、その各々の発見に対してどのように地域に貢献していけるのかを考えます。また地域と学ぶことにより、住民の方々と学生が一体化してまちづくり活動を行うことによって、新たな地域の魅力の発見し、地域の活性化を目指します。

活動内容

2009年4月 : 都市政策演習および大学研究の一環として、柏原まちづくりスタート

2009年第1回フィールドワーク・まち歩き・レクチャー

お互いを知る・学生の感想等を後日まとめる

2009年春学期 : フィールドワークを行いつつ、学生目線からの問題点調査

問題点を抽出し、問題点ごとに活動プロジェクトを各々立ち上げる。

イベント班 : 柏原最大のイベント「織田祭り」に向けての企画・提案

建築物調査班 : 柏原の建築物の現況を調査し、地域計画等まちなみ保存に向けた具体的な案の企画・提案

ワークショップ班 : 柏原のまちの環境状況向上のためのワークショップの定期的開催を企画

2009年秋学期 : 織田祭りに参加 武者行列 関学カフェ 来訪者イメージ調査

ワークショップ 住民の方々との意見交換等

リサーチフェア 柏原の活動内容を関学キャンパス内の研究発表会で発表 柏原活動の外部への発信

2009年1月 : 1年間の活動報告会

柏原を研究した学生の卒業論文・卒業制作等も合わせて報告

卒論テーマ : 「観光ボランティアガイドの活動実態に関する研究」、「資源を有効活用した地域ブランド化戦略に関する研究 丹波市のシカ肉ブランドを事例として」、「柏原町空き店舗活性化」

2010年 : 新しいメンバーも参加し、2年目のスタート

2010年第1回フィールドワーク・まち歩き・レクチャー

昨年の反省を踏まえつつ、学生独自の企画・提案を引き継ぐ

関学カフェ(織田祭り)・大手会館の模型製作(製作中)・はじめてのお使い(企画中)

関西学院大学法学部山下ゼミの参加 神戸三田キャンパスだけでなく、上ヶ原キャンパスで柏原まちづくりの活動を行い、外部への発信を行う

発表者紹介

北出 悟士 (関西学院大学大学院総合政策研究科 修士課程1年)

1986年、和歌山市出身。昨年度から都市政策演習として丹波市柏原町のまちづくりに参加。バリアフリーとまちなみ保存の観点から研究をしています。柏原の活性化に役立てられるように頑張ります。



活動テーマ

丹波地域の魅力の発見と、学習・交流、情報発信

山南スタジオは、兵庫県立大学の全県キャンパス構想に基づいて研究と人材育成を行うことで、「学習と交流」に貢献すべく設置する、学習と交流の拠点施設である。山南スタジオは、このように篠山層群などの丹波地域の特色のある資源を活かしたまちづくりを丹波市、丹波県民局、(財)兵庫丹波の森協会等と連携し、兵庫県立大学として支援することを目的としている。

活動内容

(1) 人材育成

- 1) 全県キャンパス構想に基づく授業の展開
 - ・兵庫県立大学全学共通科目「化石と地域づくりフィールドワーク：田原」の開講。
 - ・月1回3コマ分のペースで10月～2月にフィールドワークを行う。
- 2) 兵庫県立大学・大学院の授業フィールド
- 3) 兵庫県立大学による学習と交流のための社会貢献活動
- 4) 人と自然の博物館による学習と交流のための社会貢献活動
 - ・「丹波地域の化石資源を活かした人づくり」の活動拠点。



(2) 調査研究

- 1) 環境人間学部 / 研究科や経済学部 / 研究科等の研究室によるゼミの活用
- 2) 総合共同研究のフィールド
 - ・人と自然の博物館の自然・環境に関する調査研究の検討
- 3) 発掘促進に向けた人と自然の博物館の発掘ボランティアによる活用
 - ・12月再開予定の丹波竜の発掘ボランティアの宿泊等に活用の検討。



発表者紹介

やまさき よしと
山崎 義人 (兵庫県立大学自然・環境科学研究所・講師 / 人と自然の博物館)

1972年、神奈川県生まれ。早稲田大学にて後藤春彦氏に師事し、まちづくり・地域再生を学ぶ。博士(工学)。神戸大学大学院 COE 研究員を経て、2008年4月より現職。著書に「まちづくり批評」「住民主体の都市計画」等。



神戸大学篠山フィールドステーション

活動テーマ

- (1) 農業農村フィールド演習：野良仕事を学ぼう、田舎に学ぼう
- (2) 農業農村プロジェクト演習：地域の活性化につながる提案づくりに挑戦

- (1) この演習では、農家の方とムラを講師として、学生が自らの体験を通して農業と農村生活を学びます。また、学生と農家の交流を通して、地域の魅力を発見し、新しい価値を創造する機会とすることも目指しています。
- (2) この演習では、フィールド演習で学習した内容を発展させて、食と農の現場で合宿し、援農を行いながら農家と語り合い、学習・調査・実践などを加えることで、地域の活性化につながるアクションプランを考えます。

活動内容

回	日程	午前	午後	テーマ
1	4月24日(土)	オリエンテーション 野草・山菜採り、料理と試食		地域とお互いを知る 地域の生物多様性
2	5月22日(土)	田植え(田んぼアート)	水管理の仕組み見学 コンニャクの移植	田んぼで地域づくり(1)
3	6月19日(土)	黒大豆の定植	獣害防除ネットの設置	農家に弟子入り(1)
4	7月17日(土)	黒大豆中耕培土・支柱立て 田んぼアート見晴らし台の設置	親睦会	農家に弟子入り(2) 田んぼで地域づくり(2)
5	9月25日(土)	稲刈り(田んぼアート)・ 感想調整	試食・食味調整	田んぼで地域づくり(3) 米を知る
6	10月9日(土) (予定)	黒大豆の収穫・出荷準備	黒大豆枝豆の販売	農家に弟子入り(3) 地域と消費者
7	11月20日(土) (予定)	黒大豆の調整作業	黒豆栽培の知識・技術を記録 コンニャク収穫	農家に弟子入り(4) 地域の文化
8	1月22日(土) (予定)	郷土料理作り・交流昼食会	ふりかえり 地域と農業の明日を考えるWS	まとめと 地域づくり

- (1) 篠山市福住地区(受入:福住まちづくり協議会、フィールド提供:西野々集落)において、36名の学生が日帰りで農作物の栽培や様々な村仕事などの指導を受けています。演習には兵庫県立篠山産業高等学校東雲校の生徒も参加し、交流を深めています。
- (2) 2班に分かれて、各8名の学生が篠山市真南条上地区を中心に活動しています。1月に活動報告会を予定しています。
 - A) コウノトリが舞う生物多様性湿地の創生にむけて～生きもの指標を使った栽培暦づくり～
5月29日 足踏み代掻きによるピオトープ田の創造
5月30日、8月7日 ピオトープ田の生きもの調査
 - B) 大学発「丹波の赤じゃが」の地域特産化
5月29・30日 計画づくり
7月17・18日 1日限定「丹波の赤じゃが農家レストラン」の実施

発表者紹介

近藤 史 (神戸大学大学院農学研究科 地域連携研究員)

1977年、鳥取県生まれ。京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究科博士課程修了。2008年12月から現職。神戸大学農学部篠山フィールドステーションに駐在し、篠山市における演習のコーディネーターや地域連携に関する相談窓口など、大学と地域をつなぐ橋渡しをしている。



プロフィール

基調講演・コーディネーター

かどの ゆきひろ

角野 幸博 氏（関西学院大学総合政策学部 教授）



1955年京都府生まれ。京都大学工学部建築学科卒業。大阪大学大学院博士後期課程修了。(株)電通、武庫川女子大学教授等を経て、2006年4月より現職。関西学院大学社会連携センターコーディネーター。工学博士。一級建築士。著書に『郊外の20世紀』（単著：学芸出版社）『都心・まちなか・郊外の共生』（晃洋書房、共編）『都市のリデザイン』（共著：学芸出版社）他。地方都市再生やニュータウン再生等の調査研究、計画立案などに携わる。

パネリスト

えがわ なおき

江川 直樹 氏（関西大学環境都市工学部 教授）



早稲田大学理工学部建築学科卒業、同大学院修士課程修了。1977年(株)現代計画研究所入社、83年同大阪事務所を開設し、集住環境を中心とする建築設計と都市デザインに取り組む。

奈良市建築文化賞、日本建築士会連合会賞（作品賞）兵庫県人間サイズのまちづくり賞、日本都市計画学会賞（計画設計賞）、都市住宅学会賞（業績賞）、地域住宅計画賞、日本都市計画学会関西まちづくり賞、土木学会デザイン賞、日本建築家協会優秀建築選、他受賞多数

あだち なりと

足立 成人 氏（イクジウッド株式会社 代表取締役）

建設会社勤務後、27歳のとき家業の製材所を継ぎ現在に至る。故郷で仕事ができることに感謝し、地域活性化のため、商工会、まちづくり協議会などで、関西大学の学生たちの協力も得ながら日夜奮闘中。また毎年夏に行われる、関西大学の交流滞在型ワークキャンプでは、就業体験先として学生たちを受け入れ、共に作業で汗をかき、地域の木材をとおして語りあえることを楽しみにしている。現在、イクジウッド株式会社代表取締役、一級建築士。



きゃくの たかし

客野 尚志 氏（関西学院大学総合政策学部 准教授）



専門分野：都市環境、都市解析、多自然居住地域のまちづくり

大阪大学大学院工学研究科博士後期課程修了後、兵庫県立人と自然の博物館に研究員として勤務。生涯学習に関する実務と都市環境や多自然居住地域のまちづくりなどの研究に従事。2009年より現職となり、現在はGISや都市環境、建築環境などに関する授業を担当している。大阪大学大学院在学中には、財団法人兵庫丹波の森協会に専門研究員として在籍。

おぎの よしひこ

荻野 吉彦 氏（株式会社まちづくり柏原 代表取締役）

昭和45年3月関西学院大学商学部卒業後、同年4月に家業である株式会社荻野與作商店に入社し、酒類販売店を営む。地元の商工会、商店街連合会などの役員を歴任し平成12年、株式会社まちづくり柏原設立時より取締役に就任、平成17年より代表取締役。丹波市中心市街地のまちづくりの中心人物として活躍し、後進の指導も行う。長年のまちづくりの経験を活かし全国各地での講演活動も行っている。



たはら なおき

田原 直樹 氏（兵庫県立大学自然・環境科学研究所 教授）



兵庫県立大学自然・環境科学研究所の教員と同時に、兵庫県立人と自然の博物館の研究員を務める。専門は都市計画。研究所では環境計画研究部門、博物館ではコミュニティデザイン研究グループに所属、都市や多自然居住地域のプロジェクトにかかわってきた。平成22年度後期から兵庫県立大学山南スタジオを拠点とするフィールド・ワーク「化石と地域づくり」を担当。

むらかみ しげる

村上 茂 氏（上久下恐竜の里づくり協議会 事務局長）

2005年丹波市山南町にリターン。2006年8月山南町上滝篠山川河岸で国内最大級の草食恐竜化石の肋骨を発見。現在上久下地域づくりセンター活動推進員として地域自治行政の職務のかたわら、まちづくり活動に従事。年1回（冬季）の発掘調査に参加しながら講演や発見現場案内、発掘現場の小石から化石を発見する体験指導など行う。上久下地域づくりセンター長、人と自然の博物館地域研究員。



うちひら たかゆき

内平 隆之 氏（神戸大学大学院農学研究科 地域連携研究員）



1974年山口県生まれ。神戸大学大学院自然科学研究科博士課程修了。博士（工学）。2008年より神戸大学大学院農学研究科地域連携センターに現職として勤務。持続可能な地域の実現に向けた住民行動を支える環境デザインを専門に研究を行う。具体的には都市部ではエコセンター、農村部では大学の地域連携活動を研究。更に阪神間で農村地域のシェアアンテナショップの自力建設支援や都市農村交流マーケットの環境づくりなどを実践中。

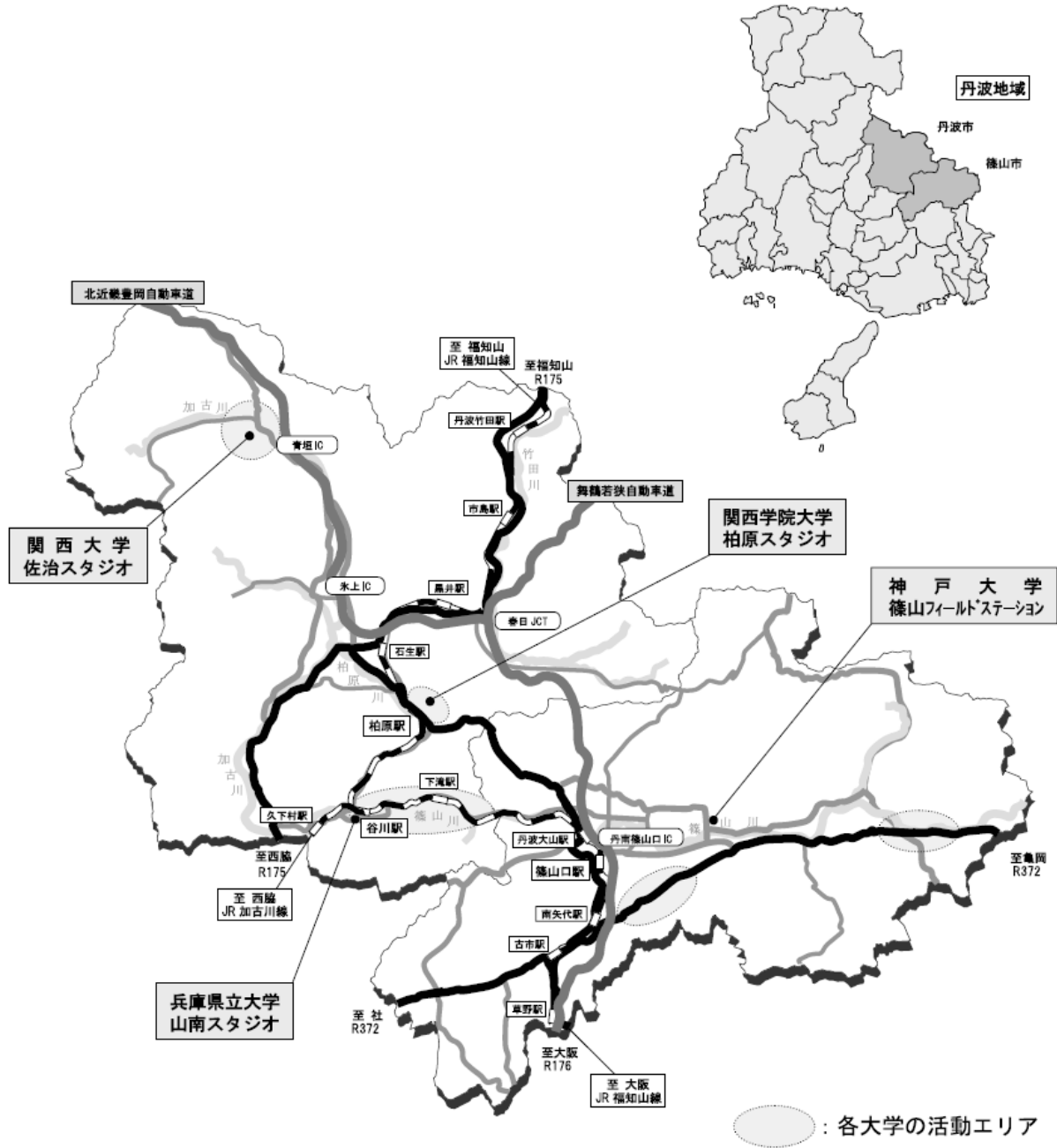
どい ひでき

土井 英樹 氏（福住地区まちづくり協議会 事務局員）

2008年、神戸大学農学部の協力を得て、地域のホームページ「福住さとねっと」を開設。その際出会った地域内外の若手グループにより2030年に福住の人口倍増倍を目指す「ふくすみ2030プロジェクト」を設立。以降、まちづくりの研究・実践に取り組む。本年、縁のあった神戸大学の農業農村フィールド演習を地域に受け入れ、学生の地域イベント参加を企画。大学と地域の連携によるまちづくりを模索中。



丹波地域 4大学の活動エリア図



大学・地域連携シンポジウム実行委員会 事務局
 兵庫県丹波県民局丹波土木事務所 まちづくり建築課
 〒669-3309 兵庫県丹波市柏原町柏原 688
 TEL : 0795-73-3862 FAX : 0795-72-4596